

こっこめ通信 05 2026

「個体識別から分かること」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

今年は低気圧通過による春の嵐の日が多く、3月以降は降水量が多くなっています。4月上旬は風の強い日も多く、定期船や飛行機の欠航が続きました。それでも過去何度も八丈島に寄港してくれた「にっぽん丸」の最終寄港日の4月14日はどうにか海も穏やかになりました。公園内の徳里山からもその勇姿が見られました。



さて、今回は「鳥の声を聞いてみよう!」と「クロアシアホウドリへの足環装着」についてのお話です。

鳥の声を聞いてみよう!

4月25日、令和8年度1回目の八丈学講座を開催しました。毎年4月は鳥の声に関する行事を企画していますが、今年は開催するか少し迷いました。というのも、開催場所で利用していたホタル水路周辺は昨年10月の台風により斜面が崩れた箇所が多く、鳥の声が少なくなっていたためです。そこで代替場所を探し、候補に挙げたのが大賀郷地区のプラザ公園、榎立地区の登立ヶ原水辺公園と硫黄沼周辺でした。何度か下見をし、今回は圧倒的に鳥の声が聞こえる硫黄沼で実施しました。

当日は今にも降り出しそうなドンヨリとした曇り空。雨が降らないことを祈り実施しましたが、途中から雨が降り始めてしまいました。雨の影響もあり、下見でたくさん聞こえた鳥の声は少なめでした。それでも以下の10種類の鳥の声が聞こえています。

アカコッコ、イイジママシクイ、ウグイス、カラスバト、シジウカラ、シチトウメジロ、タネコマドリ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、モスケミソサザイの声が聞こえましたが、コマドリとミソサザイは一回聞こえただけでした。イイジママシクイは「チューイチューイ」「シュリシュリ」「ピーピー」の3つの鳴き声を全員が認識できました。

道中、たわわに実っているツルグミを味わい、硫黄沼ではマメゲンゴロウを観察。ツルグミは渋い実もあり、みんなでどんな状態の実が甘い実なのか?を検証しながら味わいました。

現在も八丈島では台風の影響による林道の閉鎖が続く、鳥たちの様子が全く分からない状況です。影響が大きかったので、留鳥は個体数を減らしているのは間違いないと思われます。渡りの鳥も今年は少ないように感じます。緑が少なくなってしまう島を上空から見ていつもの違いを感じ、素通りしてしまったのでしょうか?鳥の声が少ないのは寂しいですね。(H.T.)



下見の時に撮影したイイジママシクイ



硫黄沼でたくさん見られるマメゲンゴロウ

「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

クロアシハウドリへの足環装着

八丈小島でクロアシハウドリの上陸が確認されたのが2013年4月のこと。あれから13年が経ち、こっこめ通信でも何度か紹介してきました。

今回は2022-2023シーズンから始めている足環装着に関して紹介したいと思います。(繁殖シーズンは秋から春にかけてのため表示は年をまたいでいます)

足環装着は、山階鳥類研究所、伊豆諸島自然史研究会が行っており、ビジターセンタースタッフは装着のお手伝いという形で参加しています。2022-2023シーズンから始まり、4年間で380羽の雛への装着が完了しています。毎回、4月の上旬頃、雛がある程度大きくなり、親鳥が頻繁に採餌に出かけるタイミングで行います。足環は金属製、プラスチック製の2種類あり、金属は右脚、プラスチックは左脚のそれぞれの^{ふしよ}跗蹠に装着します。金属の足環には「KANKYOSHO TOKYO JAPAN」とそれぞれに割り当てられた数字とアルファベットが刻印されています。また、八丈小島で着けているプラスチックの足環はピンク色で、K001から始まる番号が彫られています。

シーズン	装着日	装着数	金属足環 (右脚)	プラスチック足環 (左脚)
2022-2023	4月10日	60羽	13H1801 ~ 13H1860	K001 ~ K062
2023-2024	4月14日	60羽	13H1861 ~ 13H1900、 13H8601 ~ 13H8620	K063 ~ K126
2024-2025	4月8日	120羽	13H8621 ~ 13H8700、 13D2501 ~ 13D2540	K127 ~ K246
2025-2026	4月26日	140羽	13J3801 ~ 13J3940	K247 ~ K391



2025年4月8日装着「K155」



2026年4月26日装着「K323」

右脚に金属足環、左脚にプラスチック足環



2026年4月26日装着「K318」

2024-2025シーズンからは1年目に装着した6羽のクロアシたちも小島に帰還してきています。2025-2026シーズンには21羽の足輪を着けたクロアシが戻ってきているとのこと。また、小島では他の地域の足環（ブルー鳥島、ブラック小笠原）の姿もあり、逆に鳥島でピンク八丈小島の足環も確認されています。



2026年4月26日に確認した「K041 (右から2番目)」は、
2023年4月10日に装着した個体



2023年4月10日に確認した
「M997」は鳥島で装着した個体

3月に環境省より公表された「第5次レッドリスト (鳥類及び爬虫類・両生類)」では、クロアシハウドリは準絶滅危惧種 (NT) に格上げされました。これは漁具による混獲や気候変動による採餌環境および営巣環境の変化、海洋汚染 (プラスチック・重金属・残留性有機汚染物質)、火山噴火が存続を脅かす要因とされています。実際に足環装着時に幼鳥が吐き戻す内容物からはプラスチックやゴム気球などが発見されることもあります。クロアシは浮遊物に付着する魚卵なども食べることから、漂流系のゴミは一緒に食べてしまうのです。陸上で捨てたゴミは海に流れ込みます。ゴミのポイ捨てなど是不希望です。

ピンクの足環をつけた八丈小島生まれのクロアシがいろいろな場所で確認されると嬉しいですね。(H.T.)

ゆるり自然観察会「スミシを見比べる」

八丈ビジターセンターでは、この4月より毎月第2日曜日に『ゆるり自然観察会』を開催します。対象は小学生以上（小学生は保護者同伴）となり、親子で自然観察が楽しめる行事です（野外活動になりますので未就学児の同伴はできません）。もちろん、大人だけの参加也大歓迎です！

毎月テーマを決めて参加者みなさんでああでもない、こうでもないと植物公園の中で「ゆったり、のんびり、ワイワイ、ガヤガヤ自然をめいっぱい楽しんじゃお！」がモットーの行事です。

第1回目の4月はスミシがテーマ。題して「スミシを見比べる」。さあ！園内ではどんなスミシがあるのかな？6名の参加者と共に、第1回目のゆるり自然観察会は賑やかにスタートしました。

まずは、館内でスミシの花の造りなどをお話しし、スタッフ手作りのワークシートを持ってフィールドワークに繰り出しました。途中、スミシだけでなくすみれ色の花にも注目！みんなで観察しながらブーゲン広場へ移動。ここからスミシ探しです。「あー、こんなところにスミシが！」と誰かがスミシを見つけると、みんなでそこに行ってワークシートを駆使してスミシの同定に挑戦！ブーゲン広場では3種類のスミシが咲いていました。大型遊具広場では、公園で一番小さなスミシ「ヒメスミシ」をみんなで探し、ワークシートで本当にそれかどうかを確認します。本当に小さなスミシなので、はじめはどこに咲いているのかわからなかったのですが、1株見つけたら目が慣れてきたのか、次々と見つけることができました。

来月は5月10日です。テーマは『新緑』題して「新緑を楽しむ」です。さてさて、どんなゆるり自然観察会になりますことやら。おたのしみに！（M.K.）

植物公園のスミシ早見表

花の色



心形

YES

シチウスミシ
伊豆半島南部や伊豆諸島で見られる大型のシチウスミシの近縁種。公園内では花壇の上などよく見られる。

花の色

NO



楕円形で葉がある

YES

アツバスミシ
太平洋側に分布するスミシの海岸型。葉は厚くて光沢があり、伊豆諸島では形や花の色に変化が多い。

NO



くさの葉

三角形で葉の裏が紫色

YES

ヒメスミシ
スミシによく似た小型のスミシ。日当たりの良いところに多い。公園内では開かれた場所で確認されている。

NO

ノジスミシの仲間
他のスミシ類に比べて少し薄っぺらな印象。八丈島にはクサノノジスミシが分布しているとされているが、「ノジスミシの仲間」と表記する。

MEMO 今日スミシの他にどんなものを観察したかな？
観察したものの名前や特徴など書いておこう！

配布したワークシート：これを使ってスミシの種類を同定
みなさんも、挑戦してみてください！



わいわい、がやがや何スミシなのか同定中！！

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、極めて稀に渡ってくる「コシャクシギ」にスポットを当ててみたいと思います。



コシャクシギ

Numenius minutus

シギ科ダイシャクシギ属。日本へは稀な旅鳥として飛来。

八丈島でも極めて稀な旅鳥として確認され、ビジターセンターとしては、2012年4月14日、2022年4月16日、2026年4月24日の3回、確認しています。毎年渡ってくるチュウシャクシギよりも小さく、クチバシも短いです。2026年はムナグロの群れに混じって見られましたが、常に行動を共にしていませんでした。（H.T.）

2026
05ハチビジターセンター
プログラムカレンダー日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2 GW特別行事 「バードウォッチング入門」 「体験八丈太鼓」 「特別ガイドウォーク」
憲法記念日 3	みどりの日 4	こどもの日 立夏 5	振替休日 6	7	8	9 ガイドウォーク
GW特別行事 「バードウォッチング入門」 「体験八丈太鼓」 「特別ガイドウォーク」	GW特別行事 「バードウォッチング入門」 「体験八丈太鼓」 「特別ガイドウォーク」	GW特別行事 「バードウォッチング入門」 「体験八丈太鼓」 「特別ガイドウォーク」	GW特別行事 「バードウォッチング入門」 「体験八丈太鼓」 「特別ガイドウォーク」			
10 ガイドウォーク ゆるり自然観察会 「新緑を楽しむ」	11	12	13	14	15	16 ガイドウォーク
17 ガイドウォーク	18	19	20	小満 21	22	23 ガイドウォーク 八丈学講座「春の 海岸を散歩しよう！」
24 ガイドウォーク	25	26	27	28	29	30 ガイドウォーク
31 ガイドウォーク						この色の日 はガイドウォークや 特別行事があります

イベントプログラム

GW 特別行事
「バードウォッチング入門」ゴールデンウィークの特別行事。双眼鏡の使い方から始める入門編です。みんなで鳥を探しましょう！
5/2(土)～5/6(水) (10:00～約1時間半)
小学生以上 (小学生は保護者同伴) ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名GW 特別行事
「体験八丈太鼓」ゴールデンウィークの特別行事。八丈島の伝統芸能、八丈太鼓を叩いてみませんか？ 思い切り叩けば気分スッキリ！
5/2(土)～5/6(水) (13:30～随時)
だれでも ビジターセンターにて 参加費：無料 定員：なしGW 特別行事
「特別ガイドウォーク」ゴールデンウィークの特別行事。普段は午前中に行っているガイドウォークを午後を実施します。
5/2(土)～5/6(水) (14:00～約1時間)
だれでも ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名ゆるり自然観察会
「新緑を楽しむ」毎月テーマを変えて、ゆったりと公園内の自然を親しむ自然観察会。今回はいろいろな緑を集めて見比べます。
5/10(日) (13:30～約1時間半)
小学生以上 (小学生は保護者同伴) ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名八丈学講座
「春の海岸を散歩しよう！」毎月行っている八丈学講座。波の音や潮風を感じながら、海岸の植物や生きものを観察しましょう。
5/23(土) (10:30～約1時間半)
中学生以上 現地集合・解散 (開催場所は当日決定) 参加費：50円 定員：10名

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
5/2(土)～5/6(水)を除く毎週 土日祝日及び休日、(10:30～約1時間)
だれでも ビジターセンター集合・解散 参加費：無料 定員：10名

ビデオプログラム

10:00～ 八丈・海・生きものたち

11:00～ おじゃりやれ 八丈島

14:00～ おじゃりやれ 八丈島

15:00～ おじゃりやれ 八丈島

16:00～ 八丈・海・生きものたち

当面の間は上記のみの上映になります

東京都八丈ビジターセンター 2026.5.1 第300号

開館時間 9:00～16:45 年中無休 (入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/hachijo/>

編集後記

昨年、SNSで北海道の網走沖で撮影されたピンクの足環の着いたクロアシアホウドリの情報が発信されました。その個体(K045)は、今年も無事に八丈小島に帰還しています。私たちは鳥を顔で識別できないので、足環装着は有効的な識別になっています。(H.T.)